

## 団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

<b>団体/会社名</b>	特定非営利活動法人 心のまほろば		
<b>代表者</b>	緒方 源信	<b>担当者</b>	緒方 源信
<b>所在地</b>	〒850-0874 長崎市 魚の町 3番30号 TEL:095-822-3010 FAX:095-822-3010 E-mail:		
<b>設立の経緯 ／沿革</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立に至るまで 有志と「汝がさき」仲間の会を設立、登録商標「汝がさき」を申請した。 平成15年夏の長崎高総体では、開会式で公開演技を披露した高校生に、市内の企業団体の支援を受けて、「汝がさき」印入り手拭いを贈呈した。 平成15年4月から、一部の会員で街づくり仲間の会を結成し、長崎市の道路里親に認定され、道路清掃などに取り組んでいる。 日本の自然環境の回復と、日本人の心の揺らぎを安定化することなどを目的として、住民活動の拠点となる本法人を設立した。</li> </ul>		
<b>団体の目的 ／事業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人主義と同様に、仲間の重要性も理解してもらえよう意識改革に努める。</li> <li>・食育の推進と、地産地消活動の支援を行う。</li> <li>・命を大事にする心、心のはたらきの解明、その育成などを推進する。</li> <li>・「持続する共存平和」の推進、「共存文化」の認識の拡大などによって、長崎の観光の振興を推進する。</li> <li>・「真心、思いやりの心、おもてなしの心、譲り合いの心、助け合いの心」などを象徴する登録商標「汝がさき」の普及を図る。</li> <li>・自発的に「学んで」「生きる」生涯学習として、私尚塾の活動をする。</li> </ul>		
<b>活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)</b>	<p>命と食に関する検討と提案。 心の育成に関する検討と提案。 長崎の観光振興に関する検討と提案。 冊子「命のすじみち すすむ道」の自費出版。 冊子「共存の心やわらぐ 長崎の街」の自費出版。 冊子「生きる心の綾錦」の自費出版。 「命と心、共存による共栄」と題する講話の実施。 志尚塾の一環として、職業訓練校等における講話の実施。 定期紙「共存文化」の刊行。 地産地商の推進に協力。 道路里親として、市内の川沿い遊歩道などの清掃。 長崎県地球温暖化対策協議会に一般委員として参加するなど、長崎県と長崎市の審議会、協議会などの公募委員を勤めている。</p>		
<b>ホームページ</b>			
<b>設立年月</b>	平成15年 11月	*認証年月日(法人団体のみ)	平成16年 4月 2日
<b>資本金/基本財産 (企業・財団)</b>	円	<b>活動事業費/ 売上高(H17)</b>	円
<b>組織</b>	<p>スタッフ/職員数 1名 (内 専従 0名)</p> <p>個人会員 18名 ; 法人会員 名 ; その他会員(賛助会員等) 1名</p>		

## 政策のテーマ 「現状の産業3区分を改定し、公益産業(仮称)を加え4区分とする」

## ■政策の分野

- ・①循環型社会の構築
- ・産業構造の捉え方の見直し

## ■政策の手段

- ・①法律及び国際条約の改正
- ・国の産業区分の見直し

団体名：特定非営利活動法人 心のまほろば

担当者名：緒方 源信

■キーワード	公務	産業区分	第3次産業	公益産業	士農工商
--------	----	------	-------	------	------

## ① 政策の目的

公務などの仕事は、国家百年の大計で取り組むものであり、また、営利を目的とするものではありません。ところが、現在、公務の持つ奉仕の役わりにより、営利を目的とする他の産業と同じように、第3次産業に位置づけられています。これは現状に必ずしも合致してないようです。幸いなことに、日本には、古来、士農工商の産業区分があります。これに倣い、公務などの仕事を「公益産業(仮称)」として新設し、現在の産業3区分を4区分にすることを提案します。

## ② 背景および現状の問題点

現在の国際環境では、産業構造が、物と経済のみを重視するのではなく、心と文化にも配慮するようになりましたが、日本人の意識調査でも、物より心を重視する人が増えています。

また、日本の「士農工商」は、身分制度とされてきましたが、元来は、職業区分、つまり、今日の産業区分です。現在の高等学校の種類に、それを見ることができます。

そして、様々な出来事に鑑みて、公務などに携る人々が、誇りを持って自己の職務に取り組むことが、求められているように思われます。特に、環境問題は、日本と世界の将来にかかわることがらであり、未来指向の発想が求められます。まさに、国家百年の大計です。

明治維新以降、わが国は、欧米の方式に従って、近代化と国際化に取り組んできましたが、現在、その目的は一応達成されたと理解することができます。そして、制度疲労が見られるようになった様々な仕組みについて、構造改革が遂行されています。この中に、この産業区分の問題も含まれると考えられます。

## ③ 政策の概要

現在の産業区分は、第1次産業から第3次産業までとなっていますが、それは、恐らく欧米の考え方に沿ったものではないかと思われます。そして、国勢調査などの結果を国際比較する際には好都合なので、日本でもそれにしているものと思われます。

しかし、産業の実態をみると、公務などの仕事は、例えば「公益産業(仮称)」などとして位置づけすることが、好ましいと思われます。

特に、昨今の報道に鑑みて、公務などに携る人々が、誇りを持って自己の職務に取り組むことができるような環境を整備する必要があると思われます。

そのために、公務などの仕事は、現在の第3次産業から切り離し、さらに、他の公益に奉仕する仕事などと共に、0次産業、あるいは「公益産業(仮称)」などとして独立することとし、現在の産業区分の3区分から、4区分にすることが、実情に合ったものになると思われます。

さらに、これは、中国に由来する日本の伝統でもある「士農工商」の職業・産業分類にも、合致するものです。

そこで、研究会などを設置して、本件を検討することを提案する次第です。

#### ④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

まず、下記のような手順による検討が考えられます。

1. 現在、公務などの産業は、第3次産業に位置づけられていますが、その妥当性、並びに利害得失などを、抜本的に検討します。
2. 日本の高等学校では、その大まかな種類として、普通高校、農・水産高校、工業高校、商業高校というように、大まかにいって「士農工商」に対応しています。これも参考になると思われます。
3. 現在、公務などの仕事は、第3次産業の中の「公務」に含まれています。確かに、公務などの仕事の中には、住民奉仕の仕事もあることから、全く誤りとはいえない面もあります。しかしながら、「国家百年の大計」などというように、国の極めて重要な仕事は、現在の第3次産業には、馴染み難いように思われます。
4. そこで、第3次産業の中にある「公務」の仕事、及び「サービス業」とされている「宗教」「教育」ほかの仕事を、一つの産業としてまとめることとし、第0次産業、あるいは「公益産業(仮称)」などとして、位置づけることを提案する次第です。

#### ⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

国の所掌機関が中心となって、関係する諸組織とも話し合いながら、必要に応じて研究部会なども設置して、「公益産業(仮称)」の新設などに関する案件の検討を推進することが、最もいい方法ではないかと思えます。

## ⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

公務などの中でも「国家百年の大計」などの仕事に携る人々が、誇りを持って自分の業務に取り組むことが期待できます。

また、公務などのように、公益に奉仕する役割には、志というようなものが求められます。その時、その後ろ盾になるのが、公務などの仕事を「公益産業(仮称)」などとして位置づけることにある、ということになります。

さらに、公務などの仕事が、商取引と同じような種類に分類されていることが、様々な不祥事を生み出す根本原因にもなっていることも考えられます。

そこで、公務などの役割を、明確に、例えば「公益産業(仮称)」などとして、独立した位置づけをすることによって、好ましい倫理感が生まれることも期待されます。

## ⑦ その他・特記事項

今、日本では、様々な部門で構造改革が推進されています。これは、長年にわたって有効に機能してきた仕組みに、制度疲労が見られるようになった結果、それを修正しようという健全な働きとみなすことができます。

そして、ここまで欧米の方式にならうことで機能してきた現在の産業区分にも、そろそろ、その限界が見えてきたように思われます。

加えて、世界中で、自然環境という視点で、あらゆる事柄が見直されている今日、これまでの産業区分についても、抜本的な見直しの時期を迎えているように思われます。

つまり、自然と共に生きる人間として、地球環境の問題に取り組むに当って、その基本となる産業区分といったものが、より現実的に、かつ、未来を見据えた姿になることが、現在、強く求められているように思われます。